

自己決定を促す生活科の学習

—複式低学年「ふしぎなポケット」の実践から—

佐 和 真由美

1 はじめに

子どもたちは、元来さまざまなものに興味や関心を示す。ただ目に映り耳に聞こえるものに引きつけられることもあるが、自分の今までの知識や経験と違う時、またはそれらを越えるものに出会った時に、「どうしてだろう。」「どうすればいいのだろう。」「こうしてみよう。」と、次への活動に結びつくことが多い。しかし、豊かな環境が整えば整うほど「どうすれば…」と思う前に周囲が解決を図り、いつしか自分で考え、判断し、行動する必要がなくなってきたのではないだろうか。そこで、子どもたちにとって楽しく活動でき、自分の生活経験を広げていきながら、やり遂げた達成感のもてる学習材との出会いを考え、本実践を行った。

2 活動の実際

複式低学年（1年男子4名、女子4名、2年男子4名、女子4名）

(1) 単元について

食べることは、誰でも大好きである。食べ物のおいしさに、また和らいだ雰囲気の中での友達とのおしゃべりに心が弾むからであろう。まして、その食べ物を自分たちが作って食べる楽しさには格別なものがある。本単元では、パーティーの計画や準備・買い物・調理などを通して、収穫の喜びや自分たちで作り上げる喜びを味わい、お店の人や招待した人との対応の仕方を学ぶことができるであろう。また、この単元をきっかけにして自分の日常生活を振り返り、「自分と家族」へと活動を広げていくことができるであろう。

本学級の児童は、帝釈交流活動でカレーライス作りを、複式全体の活動で芋パーティーを経験し調理や会食に喜んで取り組んでいた。しかし、「楽しかった。今度も～してほしい。」という感想が多かった。これは、いずれも準備された中での活動だったので、準備の大変さや様々な工夫に思いを及ぼすことがまだできず、自分たちでやり遂げたという満足感を伴った楽しさを味わえてはいなかったからだと思われる。また、日常生活においても、低学年であるため何事も周囲からしてもらうことが多いためだと思われる。

そこで、導入では、児童の関心の高い調理活動を連想させるものをポケットから出すことによって、何を作り、どんな準備をすればよいかを考えていく。また、使えるお金を一人50円に限定して提示することで、買い物や準備での工夫の必要性に気づくようにしていく。この話し合い活動の中で、自分たちが作りたいものを選択し、これからの活動に見通しをもてれば、最後まで主体的に取り組めるのではないかと思う。そして、準備やパーティーなどを通して生活経験を広げ、招待する側の思いを実感することができれば、自分の日常生活を振り返り、これからどのように行動していけば良いのかに気づくきっかけになるであろう。本単元で、一つ一つの活動を自分たちの手でやり遂げたという満足感を味わい、意欲をもって次の活動に取り組むようになることを期待している。

(2) 学習のねらい

- ・友達と協力して調理をし、パーティーを楽しむことができる。
- ・招待した人と共に楽しむための工夫を考えることができる。
- ・買い物の工夫やお店の人への適切な対応の仕方に気づくことができる。

(3) 活動内容と計画

- 第一次 ふしぎなポケットから～パーティーの計画を立てよう … 1時間
 第二次 パーティーの準備をしよう … 5時間
 第三次 みんなでパーティーだ!! … 3時間
 第四次 楽しかったね～振り返ってみよう … 1時間

(4) 「ふしぎなポケットから」生まれる

① 本時のねらい

自分たちで準備をしてパーティーを開こうという意欲をもつことができる。

② 授業仮説

話し合い活動の中で自分たちのしたいことを選択するならば、最後まで意欲をもって活動に取り組むであろう。

③ 準備

指導者 ポケット (50円・お箸・ホットプレートの絵など)

④ 評価の観点

| | |
|------------|----------------------------------|
| 関心・意欲・態度 | どのようにパーティーに参加しようとしているか。 |
| 思考・表現 | 自分のしたいことや気持ちをどのように相手に伝えようとしているか。 |
| 環境や自分への気づき | 買い物の工夫や対応の仕方について、どのように気づいているか。 |

⑤ 活動の展開

| 学習活動 | みとりの視点 | 指導・支援活動 |
|--|---|---|
| 1 不思議なポケットの中身からイメージを広げる。 | ○調理したいものをどのように思い浮かべることができたか。 | 1 楽しい雰囲気の中で、歌から実際のポケットへとつなげていく。 |
| 2 調理の計画を立てる。 ・作りたいもの ・準備すること | ○どのように話し合いに参加しているか。 ○これまでの自分の経験をどのように振り返っているか。 | 2 予算は一人50円であることを知らせ、みんなで工夫して活動をしていけるように促す。 |
| 3 話し合ったことを発表する。 ・調理のイメージ画 ・準備物 | ○どのように話し合ったことを表現しようとしているか。 | 3 栽培中の野菜の利用や招待者について考えるグループがあれば、活動を高めるものとして認め、みんなにも広めるようにしていく。 |
| 4 パーティーの計画を立てる。 ・値段調べ ・買い物 ・招待状作りなど | ○お互いの考えをどのように取り入れようとしているか。 | 4 みんなのパーティーにするために、できるだけ一人一人の発表を板書に位置づけるようにする。 |

| | | |
|--|------------------------------------|--|
| <p>(授業後の活動)</p> <p>自分たちで考えた計画に沿って、値段調べなどをしていく。</p> | <p>○自分で考えたことにどのように取り組もうとしているか。</p> | <p>自分なりに見通しをもって取り組もうとしている意欲を認め、励ましていく。</p> |
|--|------------------------------------|--|

⑥ 本時での子どもは…

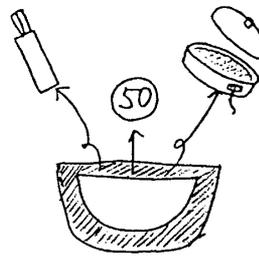
♪こんな不思議なポケットがほしい～♪

ポケットの中から、教師が、まずお箸、ホットプレートそして50円を取り出した。ポケットから何が出るだろうという期待感をもたせ、料理のイメージを広げたかったからである。いろいろな料理名が出たところで、グループでの話し合いに移った。

ここでは、生活経験の多い子がリードをとりがちなのでみんなの課題になるように、お助けとしてポケットから広告を取り出した。

使えるお金が一人50円、しかもホットプレートを使うということで、自分たちで作れるものを作りたい料理の中から話し合っ選んでいったところ、焼きそばとチャーハンに料理が絞られた。同じ料理になったので、他との違いを出すために自分たちなりのセールスポイントを考え出していった。そのこだわりは、発表時のつけたし発言によく表れていた。「私はお父さんからチャーハンの作り方を教えてもらってるから、教えてあげるね。」と友達に得意そうに話す子もいれば、「本当に作るの？」と半信半疑の子もいて、「これからこうしよう。」「これからどうしたらいいのか？」という先の活動へのさまざまな思いを抱くことができた。

これから
ほうちやうのれんしやう
どうぐをそろえる
つくりかた
ねたんしらべ
(いちばんやさい)
しょうたい
しょうたいしやう
そだてたやさい



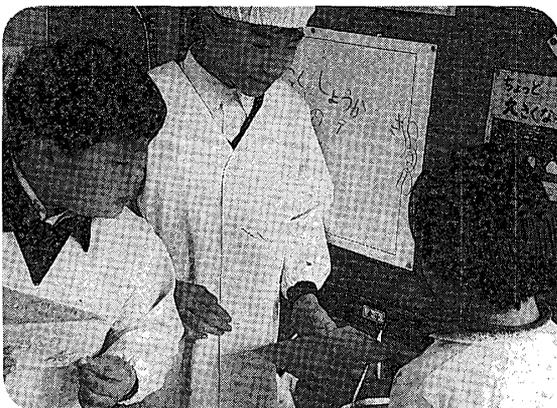
<各班の料理名>

- 1班：デラックスやきそば
- 2班：スペシャルチャーハン
- 3班：しょうゆチャーハン
- 4班：とくせいチャーハン

(5) 考えて、考えて～パーティーの準備

① 招待者あればこそ

「誰かを招待したい。」という思いを導入時から抱き、誰に来ていただくか、これからの準備はどうするのかを次時に話し合った。「養護さんに秋祭りに招待してもらったから、そのお礼に招待したい。」と、全員一致で決まった。ここから、自分たちが招かれた時の嬉しさを味わった子どもたちは、



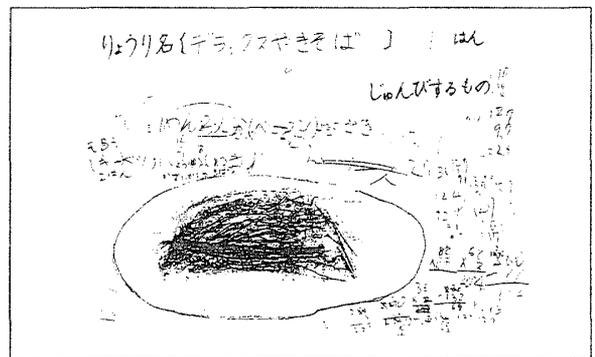
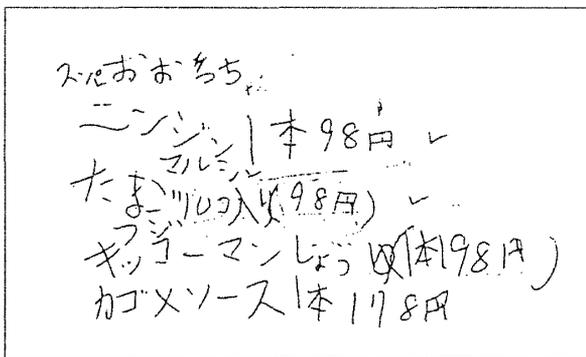
「喜んでもらいたい。」という思いで準備を進めていった。招待状や飾りつけなど、自分たちだけのお楽しみの時には「もうできた。」と早々とすませ時間を持てあます子も、ていねいに時間をかけて作る姿が見えた。また、お互いに声をかけ合い時には厳しく批評し合いながら、休憩時間や早く帰る支度をしてできた少しの空き時間をも利用して準備をしていった。もてなしたい相手があればこそその姿である。

こうしてでき上がった招待状を渡しに行く時の表情は、どの子どもとても嬉しそうであった。そして、

教室への帰り道「ありがとう。と言われたよ。」と何度も繰り返す、ますますおいしい料理を作らなければ、と口々に話し合っていた。

② 工夫を生む50円

一人50円て一班200円。これが、約10人分の予算である。『自分の』おこづかいでできるパーティーにと考えたからである。自分たちが欲しいだけ買えばかえって手に余り、家から持ってくるのでは『自分たちで』やり遂げたことにはならないので、この活動の大切な条件のひとつとして、提示した。喜んでもらうためにおいしい料理をと考えた子どもたちは、何度も値段調べをして少しでも安い店を調べたり(左図)、2年生が自然にリードして一生懸命計算をしたり(右図)するようになった。そして、チャーハンのお米はとて高いので、田舎のおばあちゃんから送ってもらったお米を炊こう。ネギとじゃがいもは、今まで育ててきた野菜を少しずつ分け合おうということになった。そのうち、保護者から楽しみにしているパーティーのデザートとして田舎から送ってもらったみかんをいただくことにもなった。給食で出たしょうゆやソースも大切な(高くて買えない)調味料として使うことになった。



パーティーの前々日、買い物に出かけた。大切なお金である。お店の中を見て回ってから一番安い品物を買うことになった。玉ねぎを比べたり、安売りのそばを見つけたり、何度もメモと比べて足りないものをチェックしたりしていた。「このおかしすぎく高い。」とうなづき合いながらじっと見つめていた。子どもたちにとって、1円2円を考えなければならない今回の買い物が、日頃使っているお金のねうちについて振り返る機会になったようである。

③ わたし、がんばる！

焼きそばにもチャーハンにも大切なベーコンなどは、値段調べの時に、お肉屋さんなら1枚でも売ってくれることを調べていた。スーパーの帰りにその店に寄ったが、100グラム単位で表示してあるため、とても買えそうにない。店の人は準備に忙しくなかなか話しかけてもらえない。この時、後ろにいた子が前に進み出て、

C：すいません。この前聞きに来た時に、こんな小さなウインナーがあったんですけど。

S：ああ、あるよ。ここに出してないけどね。(言いながら冷蔵庫から)

C：これです。これ4本いくらですか。

S：55円だよ。

C：えっ、足りない。…この前は、確か45円だと言われました。(メモを見ながら)

S：値段が上がったんだよ。

C：(相談しているが、どうしていいか分からない。そのうち、他のグループも質問し始めて)

C：じゃあ、3本にして下さい。

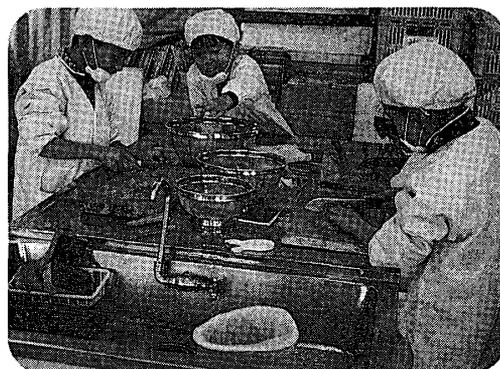
S：はい。53円だよ。

限られた予算の中でどうしてもこれを買わなければ。という思いがあるからこそ、普段控えめな子が必死にお店の人に問いかけることができたのであろう。よりよい買い物をするために、値段調べや実際の買い物の場面で、人との適切な対応の仕方を学ぶことができたと言える。こうして買った品物は、二重三重に手提げ袋に入れ、学校に持ち帰った。

(6) わくわくパーティーだよ

料理の作り方を見やすくメモに書き写してきた子、パソコンで、チャーハンの作り方を印刷してきた子、朝早く来てねぎを摘んだ子と、やる気満々のパーティー当日であった。

「私は、皮むきを練習してきたからさせて。」と積極的に仕事を見つけて動く子が多かった。中には、「僕はお料理をしたことがないんだ。」と言いながらも自分がしなければでき上がらない状況に、得意な子のお手本を見ながら全員が包丁を持ち、食べやすいように細かく材料を切っていた。



ホットプレートから香ばしい匂いが漂い始め、次々に「できたよ。」と言う歓声が上がった。テーブルをセットして養護さんとのパーティーが始まった。子どもたちの頬はゆるみっぱなしであった。「ぼくは、A君がチャーハンを口に入れる時どきどきしました。『おいしい。とってもおいしい。』と食べてもらえたので、とてもうれしかったです。(日記より)」嬉しさは、おいしく食べてもらえた感謝の気持ちになり、帰りの会で『クラスの宝物』として発表していた。

『天下一品タイム』(食事タイム)の時、プログラムにない出し物が始まった。両クラスからパントマイムやクイズが出され、話したいけどどうしたら…と思っていた子どもたちも、笑顔を交わしあっていた。

招待者がいることで、活動がより生き生きとしたものになったと言えよう。

(7) 楽しかったね

パーティー後の振り返りでは、養護さんといっしょにできて楽しかった。おいしいと言ってもらえて嬉しかった。こんな料理が作れてパーティーができたなんて自分たちはすごいと思った。などいろいろな思いがとびだした。このパーティーを自分たちだけでやり終えて、満足感と達成感をもつことができたと言える。以下は、1年生の日記である。

きょう、1じかん目から3じかん目までわくわくパーティーがありました。つくるのがたのしかったです。ようごさんが、なんかいも「おいしいよ。おいしいよ。」とってくれたので、うれしかったです。いつかまた、わくわくパーティーをするときは、「Nのおねえちゃんみたいにじょうずにつくろう。」とおもいました。

きょう、わくわくパーティーがありました。さいしょに、どうぐをあらいました。つぎに、KくんとIのおにいちゃんが、キャベツをきりました。Yのおねえちゃんとわたしで、ニンジンのみじんぎりにしました。たのしかったです。…みんなであじみをしたらとてもおいしくてうれしくなりました。…こんどは、ほかのメニューにもちようせんしたいです。

どの班も、2年生が自然にリードし、分担し合い協力し合って調理をしていたので、2年生がよいお手本となり、よい目標になったのである。また、パーティーに来てくれた養護さんに、1枚でもベーコンを売ってくれたお肉屋さんに、お米を送ってくれたMさんのおばあちゃんに…ありがとうと言いたいという気持ちをもって、お礼のお手紙を書くことになった。

3 おわりに

本実践の授業仮説は、「話し合い活動の中で自分たちのしたいことを選択するならば、最後まで意欲をもって活動に取り組むであろう」であった。

低学年の子どもたちだけで行える調理活動を考え、導入で、ホットプレートと50円を提示した。作りたいものの中から作れそうなものを自分たちなりに考えて選択していた。この時フレンチトーストを作りたいM子は、話し合いでチャーハンを作ることになった。自分のしたかったこととは違ってしまったのである。そこで、M子の以後の活動に注目していった。M子は、雪の結晶(ティッシュ)入りの風船(ビニール袋)をプレゼントにすることを考えつき、家に持ち帰ってまでマットを作った。また、値段調べでとてもお金が足りないことが分かって、田舎から送ってもらったお米を使うことを提案した。自分たちのしたいパーティーのために、その時々で考え、もっとすてきなもの・より良いものはないかと工夫を凝らし、意欲的に自分の活動として取り組んでいったのである。

他の子どもたちも、自分で飾り用の折り紙を持ってきたり、少しの空き時間でも見つけて作ったりと、準備の活動から積極的に取り組んでいた。「早くパーティーになるようにおまじないをかけました。」と言うほど待ち望んでいたパーティーを終えて、自分たちだけでやりとげた達成感を十分に味わうことができた。この達成感は、買い物や調理といった自分たちだけでは無理かもしれないという少し高いハードルをとびこしたから生まれたものであり、喜んでくれた養護さんたちのおかげでよりいっそう高まったと言えるであろう。「もっと～してほしい。」と考えがちだった子どもたちが、自分たちの活動を支えてくれた人々への感謝の気持ちをもてたのが、この活動の大きな収穫である。

これからも、わくわく楽しい活動の中で、考え、自分なりに活動し、振り返り、次の活動へと続いていくような実践を重ねていきたい。